

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP	学習成果
構造力学Ⅱ	野田 一成	講義	2	建築士	1,2	3	1,2,3,4
授業概要 授業目的	建築構造物における力の釣合と変形の適合を学習し、不静定構造の解法を理解する。様々な計算が実務上、どのような場面で用いられるのかを理解すること、また建築士等の資格取得のために必要となる知識向上を目的とする。						
到達目標	構造物の変形を求めることができる。 様々な計算法を用いて不静定構造を解くことができる。						
回	学習内容						
1	静定構造物の解法の復習Ⅰ（静定梁、静定トラスの解法）						
2	静定構造物の解法の復習Ⅱ（静定梁、静定トラスの解法）						
3	構造物の弾性変形解析（解析仮定・重ね合わせの原理・ひずみエネルギー）						
4	仮想仕事法Ⅰ（トラスの変形解析）						
5	仮想仕事法Ⅱ（棒構造の変形解析）						
6	演習問題Ⅰ（トラスおよび棒構造の変形解析）とその解説						
7	不静定次数の算定						
8	応力法Ⅰ（不静定トラスの解法）						
9	応力法Ⅱ（不静定梁の解法）						
10	応力法Ⅲ（不静定骨組の解法）						
11	演習問題Ⅱ（応力法による不静定構造の解法）とその解説						
12	固定法Ⅰ（不静定構造の解法）						
13	固定法Ⅱ（不静定構造の解法）、演習問題Ⅲ（固定法）とその解説						
14	たわみ角法Ⅰ（不静定構造の解法）						
15	たわみ角法Ⅱ（不静定構造の解法）、演習問題Ⅳ（不静定構造の解法）とその解説						
予習内容 復習内容	予習：参考書を熟読し自分で計算を解いてみる。 復習：履修した問題の整理。（予習で解けなかった計算が解くことができるか確認など）						
教科書	教科書は特に指定しない。次の書籍を参考書として用いる。 改訂版「図説やさしい構造力学」学芸出版社						
成績評価	演習問題（80点）、積極的に取り組む姿勢（20点）の合計を評価点とし、60点以上を合格とする。						
実務経験	現在構造設計事務所にて主に鉄筋コンクリート造、鉄骨造の構造設計を担っている。(株)建築資料研究社日建学院にて一級建築士講座の講師経験。						
その他 特記事項	建築という学問の中でも近年は構造に苦手意識を持っている方が多いと聞きます。しかしながら構造は多くの計算を自分の力で解くことで力の流れが理解でき必ず役に立つ学問です。また建築士等の資格取得を考えている方々においても構造に苦手意識のない方は資格取得に非常に有利です。						